教材のねらい

1 選定の理由

俳諧では、近世の代表的な俳人である松尾芭蕉・与謝蕪村・小林一茶を取り上げ、その個性的な俳風を理解したうえで、和歌の伝統を踏まえた俳諧のおもしろさや、現代にも受け継がれている季節に対するさまざまな感じ方を味わわせたい。

2 指導のねらい

(1)内容を理解させ、何度も音読を重ね、句における「切れ」の位置や言葉の選び方の巧みさを体感させる。
(2)作者の感動を自分に身近なものとして捉え、句に表現された情景を自分なりに理解し、鑑賞することで、古典は今に生きているものだということに気づかせたい。

3 評価規準

(1) 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。〔知・技〕（1）ア
(2) 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔知・技〕（1）ウ
(3) 我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。〔知・技〕（1）オ
(4) 古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解しているか、確認する。〔知・技〕（2）イ
(5) 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解しているか、確認する。〔知・技〕（2）ウ
(6)「読むこと」ことにおいて、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。〔思・判・表〕B（1）ア
(7)「読むこと」ことにおいて、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。〔思・判・表〕B（1）イ
(8)「読むこと」ことにおいて、文章の構成、表現の仕方、表現の特色について評価している。〔思・判・表〕B（1）ウ
(9)「読むこと」ことにおいて、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔思・判・表〕B（1）エ
(10) 進んで俳諧から近現代の俳句へと続く形式や表現の技法を理解し、代表的作品を読み味わい、学習課題に沿って、印象に残った句を選び、言葉に託された風景や作者の心情を想像しようとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕